

あなたは「気にしないでいられる立場？」10月号

～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

みなさんは、これまで自動販売機を利用してきて、気になることはなかったですか。

令和5年11月30日の大分合同新聞に、次のようなコラムが掲載されていました。

「『ぎゅっちょ』であることで不快な思いをした覚えは特にないが、自動販売機のコイン投入や自動改札での振る舞いなど、右利き前提のサービスには少々苦戦する。後ろに人がいればなおさら、スマートに済ませようなどと意識して、かえってぎこちなくなったり（以下略）」

このコラムを読み、当たり前のこととして気にせずになっていたコイン投入口が、なぜ左端でなく右端になっているのだろうと疑問を感じる方もいたのではないのでしょうか。普段、私たちの社会は右利き（多

数派）の社会になっています。そのことで左利き（少数派）の人は、日常的に不便・不利益を感じながら過しているのです。

最近では減ってきましたが、昔は、多くの左利きの子どもが右利きになる練習をさせられてきました。子どもが将来困らないようにという理由のようです。左利きの人の不便・不利益は、こうした社会に合わせてようとする個人の努力によって解決されるべき問題でしょうか。それとも、利き手に関係なく過ごしやすい社会に変えることで解決すべき問題でしょうか。

左利きに限らず、私たちの暮らす社会にはさまざまな「少数派」の人がいます。そして、これまでは、少数派が多数派を中心とした社会の在り方に合わせるよう努力することが当たり前になっていました。

しかし、これからは社会に人が合わせるのでなく、さまざまな人がいることを前提とした誰もが暮らしやすい社会をつくることが望まれます。そうすることで、私たちの社会はもっと豊かになると思います。

